



こう話す伊藤さんには、他にも実習生のおかげで得るものがあるようです。
日本人と外国人が共に働く職場ですが、伊藤さんの所では家族のような理想的な関係が築かれていました。
また、実習生は地域でも温かく受け入れてもらっている様子でした。
伊藤さんに秘訣を伺うと「交通マナーとあいさつ」だ



1.雇用主の伊藤さん(写真左)と技能実習生たち 2.事務所に飾られた実習生から送られた中国製の刺繍 3.バック詰めされた大葉

とか。交通事故はお互いが不幸になってしまうため、特に気を付けて指導するとのこと。そして何よりも、笑顔であいさつすることが一番大切だそうです。
インタビューからは、国や言語の違いの前に、「一人の人として向き合い、相手を尊重する」という当たり前の思いやりが伝わってきました。

支援団体① あかばねひらがなの会

平成18年に立ち上がった地域に住む外国人の支援をする団体です。地域の女性を中心に、20名ほどが毎月の創作教室を中心に、日本語教室などを行っています。代表の中村都祁子さんにお話を伺いました。

日本人スタッフも、外国人の参加者も募集しています！
気軽に来てくださいね。

会を立ち上げたきっかけ

地域に外国人が増えてきて、「結婚で日本に来たけど、昼間は話し相手がなくて寂しい」「日本語を勉強したい」「家族のために日本の料理を勉強したい」というような声を聞いたことがきっかけでした。

多国籍化へ

昔は中国の方が多かったけど、最近はフィリピンやベトナムの方も来てくれています。どんな国の方もお話ししたり、料理したりしているうちに仲良くなり、楽しい時間を過ごしています。

成長を感じる喜び

長年支援をしていると、昔は問題を抱えていた子が、成長して立派に働いているのを見ることがあります。そんな時は、とってもうれしいですね。

地域への広がり

外国人だけでなく、ここへ移住してきた日本の方も会に来てくれます。カフェを営んでいる方が、料理教室



を開催してくれて、みんな楽しんで参加していました。新しい風が地域に入ってくるのは楽しいですね。

外国人と接するためには

難しく考えず、日本人でも外国人でも、よく付き合っ、相手を知ることが大切だと思います。スポーツなど、外国にルーツのある方が活躍する時代です。多様性があるといいと思うんです。

▶あかばねひらがなの会(中村) ☎090-7313-0097
赤羽根市民館にて第3日曜に開催※日程は変更があるため、赤羽根市民館(☎45-5210)に確認してください